

会 議 録

会議の名称	第3回 戸田市自治基本条例推進委員会
開催日時	令和4年10月18日(火) 午後7時00分～午後8時00分
開催場所	戸田市役所5階 大会議室AB
委員氏名	<input checked="" type="checkbox"/> 横山 誠 <input type="checkbox"/> 岩本 恭幸 <input type="checkbox"/> 木本 篤史 <input type="checkbox"/> 芳賀 良 <input type="checkbox"/> 細井 翔太 <input type="checkbox"/> 宮澤 正 <input type="checkbox"/> 小野塚 加代 <input type="checkbox"/> 宮澤 浩二 <input checked="" type="checkbox"/> 峯岸 義雄 <input type="checkbox"/> 矢澤 青河 <input type="checkbox"/> 牧野 秀平 <input type="checkbox"/> 長尾 愛子 <input type="checkbox"/> 松下 啓一 <div style="text-align: right;"> (<input checked="" type="checkbox"/> 委員長 <input type="checkbox"/> 副委員長) (<input type="checkbox"/> 出席 <input checked="" type="checkbox"/> 欠席) </div>
説明のために出席した者等	企画財政部共創企画課 甲原課長
事務局他	市民生活部協働推進課 峰岸課長、川原副主幹、秋山主任
議 題	(1) 第五次総合振興計画について (2) 答申について (3) その他
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別紙のとおり

<p>委員長</p>	<p>議題（２） 答申について</p> <p>第三期は話し合いを行いながら、答申に向けて意見をまとめていく手法をとった。第四期はまず、市長の答申に対して皆さんの意見を伺い、キーワードや考え方など共有すべきことを整理し、それを基に、次回からの推進委員会で話し合っまとめていきたい。これから皆さんに一人２分程度で思いや考えをお話いただければと思う。</p> <p>ではまず私からお話したい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【諮問内容】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大を経験した私たちが、社会状況の変化に対応しながら、どのようなまちづくりの担い手としての市民参加を促進していくか、検討してください。</p> </div> <p>市民参加を促進していくためにはいくつかフェーズがあるだろうと考えた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民ひとりひとりが担い手であるという理解や自覚が必要である。 2. 戸田市が抱える課題を、誰もがわかる言葉にして、「見える化」する必要がある。 3. 課題を抱えている人が参加できる相談や協議の場が必要である。 4. 応答する人が参加・参画できる機会を提供する。 5. 協働の事例の共有。戸田市の中で行われている協働の事例を認識してもらう。 <p>以上の５つのフェーズで具体的にできているのかを確認すればいいのではと考えてみた。</p>
<p>副委員長</p>	<p>当委員会は市長がなすべきことを答申で提案するという役割である、という視点で考えた。促進する方法として、参加しやすい体制づくりをすることと支援の明確化が必要である。例えばパブリックコメント制度は、要綱（内部の取り決め）となっており、なぜ条例や規則にしないのか疑問である。また、自治基本条例と個別法との整合性を検討する体制を作ることが必要ではないか。</p> <p>そういったことを前提にして、意見を募るのに、アドレス登録者へのアプローチをしていくのはどうか。例えばアンケートや無記名</p>

	<p>コメントを求めている。プル戦略からプッシュ戦略に視点を移していくのも一つの方法だと思う。</p> <p>また、まちづくりの担い手とは、T O M A T O等で市民活動をしている人たちと考えると、そういった人にスタートアップ事業や継続支援をしていく必要がある。例えば補助金の制度について、情報を整理して広め、通年で申請できる補助金があってもよい。</p> <p>先日「戸田市共創まちづくり補助金」の審査に、議決権なしのオブザーバーとして参加した。補助金の審査員は市役所の職員で構成されているが、公募委員などを活用するのも一つのやり方ではないか。税金の使い道について問題意識を持つようになる。また、その中の事業に、市と市民活動者をつなぐ話し合いの機会を設けるという事業提案があった。まさに自治基本条例を体現した取り組みである。横のつながりやネットワークを広げることで、担い手づくりの活性化できるのではないかと。市が率先してやることが必要であるが、ファシリテーターの力量が重要であるので、民間を活用するという方法も考えられるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>若い世代の考えとして提案したい。近年テレビよりネットの広告費が上回ってきているという推移がある。</p> <p>市は、広報やホームページからの情報発信がメインだが、2021年の野村総合研究所の調査によると、5年ほど前は検索エンジンを利用しての情報収集が多かったが、15歳から25歳のZ世代は、主にSNS、ツイッターやインスタグラムなどのSNSから情報収集する方法に変化してきている。</p> <p>委員長や副委員長から、参加の機会や場を設けるとのご意見があったが、若い人たちやそれ以外の世代の興味がある人にいかにして情報を伝えて、次の担い手につなげていくかが重要ではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>市民活動支援センターに所属しているため、その視点から話したい。</p> <p>コロナでしばらく活動できなかったが、7月に市民活動をしたい人が相談できる場として「トマカフェ」を開催した。コロナも収まってきている中で、自分に何かできるか、久しぶりに何かやりたいと考えている人たちがいる。まさにそれが担い手だと思う。そういった人たちを支援したりする取り組みが大事だと思う。</p>

	<p>もう一つは、コロナを経験し、働き方や時間の使い方が変わってきたという話があった。コロナは悪い面ばかりではなく、新たな時間が出て、ボランティア活動や市民活動にかかわりたいという新たな担い手も出てきている。そういった方の支援ができればと思う。「市民活動」という言葉を使うと構えてしまうのであえて使わず、活動しやすい雰囲気を作りたい。市民活動支援センターをうまく巻き込む方法も考えられるのではないかな。</p>
<p>委員</p>	<p>市民と行政、議会が互いに手を取り合っていくことをより推し進めていかなければならないと考え、2点を挙げたい。</p> <p>1点目は、市と企業がタッグを組んで何ができるかを募って取り組んでいる事例がある。</p> <p>例えば、戸田市は国民健康保険の医療負担額が高いので、民間病院と連携して薬の処方だけでなく、社会的な処方を進めており、例えば要介護予防のために医師が地域の活動を紹介するという取り組みをしている。そういった人たちを、自治基本条例の活動に巻き込んで、地域課題を行政、議会だけでなく、専門的な知識のある事業者と一緒に協力するしくみが何かできないかな。</p> <p>2点目は、富山県富岡市で行っている事例で、カードゲームで「地域共生社会」をシュミレーションするというものがあった。ゲームだと敷居が低くなり、活動に入りやすいのではないかな。</p>
<p>委員</p>	<p>第三期の当委員会の審議結果では、委員会の在り方として提案型の諮問機関とあった。一方で委員会に実行機関がないことが課題されていた。そのため、実行性の確保があると判断した場合には、当委員会が実行機関として活動することが必要とのことだった。</p> <p>実行性がなければ、委員会としての存在が薄れるのではないかと感じている。そのため、例えば他の自治体の事業を参考にしたり、直接NPOや町会の方にお話を伺ったりして、実行性のある提案をしたい。</p> <p>具体的な提案をするとすれば、他自治体を調査したりすることや、ICTを活用して市民の意見がすぐに届くような体系を作っていきたいと思う。担い手を増やすための補助金のまとめや団体の意見聴取等、活動をしていかなければならないと感じている。</p>
	<p>委員</p> <p>市民活動に子育て世代の方にも、多く参加してほしい。</p>

	<p>実際に参加できる人と、オンラインで参加できる人と同時に進行できる体制を作ることが必要ではないか。そういった人たちがアイデアを発信しやすくしていくことが大事だと考える。また、拾いやすい情報の流し方を考える必要がある。</p> <p>市民参加の段階を分かりやすくしていくという点では、名古屋市では参加の度合いを段階ごとに認定をしていくという取り組みをしている。分かりやすくして良いと思う。</p>
委員	<p>この委員会以外に、「外部評価委員会」にも参加している。そこで感じたのは、自治基本条例の成果物がまさに第5次総合振興計画であるということである。よって、戸田市第5次総合振興計画の32施策の人気コンテストや、クイズ形式で自治基本条例を学んでいくような遊び心も取り入れながら自覚を持たせていってはどうか。</p> <p>また、LINEで自治基本条例推進委員会のアカウントを作って、グループを作ったり、投票やアンケートを実施してはどうか。ラインスタンプでプロモーションすることもできる。</p> <p>コロナに関して言うと、デジタルコンタクトを認知されたプラットフォームを使ってやってくることが必要だと考える。</p>
委員	<p>高齢者や子供など外国人を含めて、皆さんが参加していくことが必要である。コロナによって、外部の接触が少なくなっている。当分続くであろう。SNSなどを情報発信手段として使っていくのはどうか。また、子どもたちが考えたイベントに大人が協力していくと、また違った形で人が集まって、違った発展があるのではないか。</p>
委員	<p>第四期としては、提案型の諮問機関として、当員会の存在をより周知させて利用してもらうことが重要と考えている。三期までに、委員会としての在り方や土台づくりをしていただいたと考えている。</p> <p>前期では、思ったような活動や議論ができず閉塞感があったが、アンケートなどを実施し、条例や当委員会の認知度が低いことや町づくりに熱意はあるが、声を上げる場がないということが課題であると分かった。</p> <p>市民参加の促進については、何よりも気軽に声を上げられる場が必要である。そのため、オール戸田の精神を広くわかりやすく伝え</p>

	<p>るべきと感じている。まずリーフレットやポスターなどを作成して、自治基本条例の考えをイベントがあった時に、人員がいなくても伝えられるようにしていく。興味がある人の足掛かりとなればと思う。</p> <p>まちづくりに参加する個人や団体に対して、表彰などの評価制度があってもよいのではないか。戸田オールカードを活用していくのはどうか。対価がある方が参加への敷居が低くなるのではないか。</p> <p>今後もまちづくりのきっかけ、窓口や案内役となるようまちづくりの意思を持つ者への後押しとなる提案ができるよう議論を重ねていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>「青少年団体連絡協議会」という団体に所属しており、子どもたちや青少年が集まる団体に関わっている。</p> <p>先ほど数名の委員さんが言った通り、自治基本条例は素晴らしいものであるが、コロナがあって、2～3年活動ができず空白の時を過ごした。市長の諮問でもコロナがあってこれからどう活動していくかというようなニュアンスが入っていたと思う。</p> <p>コロナにより、明らかに我々の生活も変わった。</p> <p>例えば、先日の市民体育祭は、従来の体育祭の雰囲気と明らかに変わり、参加者が限られ今後の継続の危機を感じた。それと同じようにコロナが終わって、一般的な自治基本条例の活動をしていくにはどうしたらいいのかを提言できれば良いのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>私は一期目から委員会に関わり、条例作成にも携わった。オール戸田のまちづくりの担い手として、市民と議会と行政が一緒に集う場ができたなら新しい取り組みができるのではないかと思ったが、結局うまくいかなかった。これまで、内向きな活動をやってきたが、今期は外に打って出て行かないといけないと思っている。</p> <p>今回はいったん課題をあらいだし、いっぺんにはできないので、諮問に応じたような市民参加や新しい取り組みを提案してみたらどうか。例えばパブリックコメントの条例案をつくる、補助金を総ざらいして委員の中で並べていく、市民参加すべき審議会をみんな提案していく。いくらでも委員会で取り組むべきことがある。</p> <p>活動したいと思っても、1人ではできないので、仲間を集められる場づくりをしていく。そういうのを提案するのもよい。</p> <p>課題を整理して示し、その中の一つを委員会として提案したらよ</p>

<p>委員長</p>	<p>いと思っている。</p> <p>今回の委員会で皆さんの立ち位置から見たさまざまな課題やご意見を伺った。優先順位を考えながら、次回の委員会ではそれをもとに整理していきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>議題3 その他</p> <p>「啓発活動について」【資料2】【資料3】と「リーフレットの作成について」【資料4】の2点について事務局より説明。</p> <p>1点目、「とだ環境フェア2022」における啓発活動については、事前にメールで参加者を募らせていただき、実施予定。 今回は第四期のメンバーで初めての啓発活動となるため、活動を通して感じたことを次回に繋げられるようにしていきたい。</p> <p>2点目のリーフレットについては、第三期の委員会で提案があり、今回作成を進めていくという形となる。公共施設の情報ラックや窓口に設置し、まちづくりへの参加を促しながら、自治基本条例の理念の普及啓発を目指すことを目的としている。 事務局としては、委員の皆さんの思いをできるだけ引継ぎ、戸田流のリーフレットを作成していきたい。令和5年3月末に完成品を公共施設に設置できればと思っている。委員の皆様のご意見を反映させたものにしていくため、ワーキンググループを作りたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。 次回1月の委員会で、デザイン案を提案できるよう考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>その他、私からZOOMを利用した研究会を提案したい。委員会の限られた時間の中で、意見を言うのが難しいとのご意見をいただいている。また、様々なご意見を伺っても質疑が出来ず、より深めることが出来ないと感じている。そのため、ZOOMを活用した研究会という形で、ディスカッションやゲストを呼んでの交流の場として、私が主催で有志で開催したいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>コロナの前は会議が21時頃まであったが、最近はあまり話ができずに終わってしまっている印象がある。いつから変わってしまった</p>

	たのか。
委員長	<p>コロナ後より、会議は1時間程度ということになってきている。今日も様々な立場の方の視点での意見はとても刺激的で有意義であると感じている。そのため、もっと様々なお話を聞けたらと思う。皆様にご協力いただく形となるが、ZOOMを使った交流会を実施したいと思う。皆様の同意が得られればと思っている。</p>
委員一同	異議なし。
委員	例えば町会の取り組みなども聞いてみるのもよいのではないか。
委員長	今日はさまざまな視点を伺って大変刺激になった。私からは以上であるが、事務局から連絡はあるか。
委員一同	特になし。
委員長	その他皆さんからのご意見・ご質問等はあるか。
委員一同	特になし。
委員長	以上で本日の議事についてはすべて終了した。
	4 事務連絡
事務局	次回の推進委員会については令和5年1月に開催予定である。
	5 閉会